

平成 23 年 4 月 1 日



まねん

KKR 広島記念病院広報誌

第 19 号

発行所 〒730-0802  
広島市中区本川町1-4-3  
国家公務員共済組合連合会  
広島記念病院  
☎(082)292-1271

<http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org>

## 2012年 新入職員を迎えて

2012年3月11日 午後2時48分、東北地方にマグニチュード9.0と過去最大規模の地震と津波による被害、さらに東京電力の福島原子力発電所の事故を併発する大災害となりました。被害に遭われた多くの方々にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々に対し、深く哀悼の意を表します。

厳しい日本経済はさらに大きな試練を迎えております。日本全体でこの苦境を乗り越えて行かなければなりません。我々の行動を世界の人々が注視している今こそ、一人ひとりが自分に何ができるかを自らに問わねばなりません。そして再び奇跡を起こし、何としても日本を復活させなければなりません。

そんな中、当院にも新しい30名の新入職員（医師3名、助産師2名、保健師10名、看護師15名）が加わりました。

今年が開院61年目を迎えましたが、広島記念病院創立時の思想・哲学である『患者は医療によって肉体的にも精神的にも癒されるべきである』、理念としての『癒しとは肉体的・精神的に安心、信頼、満足することである』を実践していきたいと思っております。

23年度の当院の目標は「病院総ての職種がこの哲学思想のもと、理念を実現するために行動を起こすこと」です。すなわち、医療人として全職員が

- 1) 知的能力
- 2) 技術能力
- 3) 人間力（心の能力）

を持ち、人間としての豊かさ、重さ、深さを携えつつ切磋琢磨していただきたいと思っております。そして、広島記念病院人としての品位とこだわりを誇りを持った医療人となって、社会に貢献していく所存です。



平成23年度新入職員

# 人工肛門について

外科 矢野雷太



「人工肛門」という言葉は、医療従事者でなくても聞いたことがあると思いますが、医療従事者の間では、「消化管ストーマ」あるいは単に「ストーマ」という言い方をするのが一般的と思われます。

当院外科では、消化器領域を中心に多くの外科手術を行っていますが、その中で、大腸癌や消化管穿孔など様々な疾患を原因として、永久的あるいは一時的なストーマを造設する手術をしばしば経験します。自然肛門や消化管の一部に、手術をした後も食べ物を通せない、あるいは通すわけにいかない病態があるときに、ストーマ

を造設する必要が生じるわけですが、術後は便やガスがストーマから排出されるようになるため、患者様の生活は大きく変化します。術前の患者様を含め、一般に「人工肛門」という言葉に対しては、大きな拒否感があるのが現状と言わざるをえません。もしかすると、ストーマ造設術について最も難しいのは、そのライフスタイルやボディイメージの変化を患者様自身に受容していただくことかもしれません。当科では、術前・術後を通じて、患者様とコミュニケーションをとりながらストーマケアを行っていくことで、患者様がストーマを受容しやすい環境を提供できるよう取り組んでいます。

また、ひとくちにストーマと言っても、消化管のどの部位でストーマを造設するかによって排泄物の性状や量が異なるため、ケアの仕方や装具の選択などの対応が異なります。例えば、大腸ストーマでは、排泄物は自然肛門から排泄される便やガスに近いものが排泄されますが、小腸ストーマでは、水分を主に吸収する大腸を通らずに排泄されるため、より水様に近い便が多量に排泄されますし、消化酵素の活性が高いこともあり、ストーマ周囲の皮膚障害が発生しやすくなります。最近では、様々な状況を想定して多様な装具が開発されていますし、当科では、患者様それぞれの状況に合わせて、最適な装具の選択やケアの仕方を提案できるよう努力しています。

そして、退院後も継続したケアを提供できるよう、当院では平成 19 年度から「ストーマ外来」を運営しています。毎週木曜日と金曜日の午前中に、皮膚・排泄ケア認定看護師による外来対応を行っておりますので、ストーマケアについてお困りの患者様やご家族がいらっしゃいましたら、ぜひ当院外科外来へお問い合わせください。

ストーマに関する当院のもう一つの取り組みとして、平成 20 年度から「ストーマ患者会」を年に 1 回開催しています。当院の医師・看護師・薬剤師・管理栄養士や、ストーマ関連企業のスタッフなどが、患者様やご家族とともに日頃の悩みを共有し相談できる機会として、おかげさまで好評をいただいております。今年度は、「第 25 回中国四国ストーマリハビリテーション研究会」を当院が幹事として開催させていただく運びになりましたので、その会場内にストーマ相談コーナーを設ける予定となっています。また、「においのワケと消臭のコツ」と題して、最近テレビにも出演機会が増えている広島大学病院感染症科の大毛宏喜教授による市民公開講座も予定しています。面白いお話が聞けるといいますので、是非ご参加ください。

## 第 25 回中国四国ストーリーマリハビリテーション研究会

会期：平成 23 年 7 月 2 日（土曜日）

会場：広島国際会議場フェニックスホール・ダリア

※研究会は 9 時より開会。市民公開講座は 16 時～17 時の予定。

## 助産外来・院内助産を始めて

羽原 章子



昨年 1 月より記念病院産婦人科では、妊婦健診を助産師が行う助産師外来を、また 7 月 7 日より院内助産をスタートしました。助産外来は、患者様の待ち時間短縮、保健指導の充実、医師外来の負担軽減を目的に開始し、現在まで 29 名の患者様が対象となっています。対象者は正常経過妊婦に限定し、ご本人の希望がある場合に行っています。また、一旦開始しても途中で正常から経過が逸脱した場合には医師管理としています。助産外来では保健指導の他に、妊娠初期にバースプラン（どのようなお産がしたいか、お産の具体的なイメージや希望などのお産の企画書）について説明し、中期に内容の確認を行って

います。これによってより具体的に分娩前に「お産」のイメージがはっきりし不安を解消したり、自分の希望に沿ったお産ができるという利点があります。バースプランの中には「アロマを使用したい」、「部屋を暗くしてリラックスしたい」、「夫に臍帯を切ってもらいたい」など具体的な希望も含まれる限り実現できるように取り計らっております。また、実際にお産のときに密接に関わりあう助産師と外来でも関わることで、お産のときの安心感が増し、スタッフと会話しやすくなるという点も好評です。

助産外来を受けている方のなかで特に希望される方に院内助産を行っております。

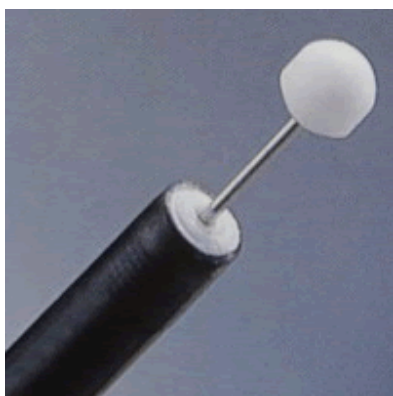
院内助産では専用の部屋（畳敷きで、間接照明などでリラックスできる雰囲気にあります）で陣痛、分娩を通して過します。ご家族とともに陣痛期を過し、分娩は分娩台ではなく畳や布団の上で必要のない限り自然に、フリースタイルで行うという様式です。院内助産を希望される方には、上記の指導のほかに妊娠 32 週から 36 週ごろに、実際に立ち会うご家族の家族面接を行い、夫が妊娠中にできるサポートの提案や、フリースタイル分娩の方法、陣痛期の過し方などの説明、などを行っています。また実際に院内助産の部屋でのフリースタイル分娩の演習も行い本番に備えてご家族で意識を高めていただくことができます。分娩後には、希望される方に、一ヶ月以内の家庭訪問や、電話訪問など行い産後のサポートも行っています。現在まで、院内助産は初産婦 4 名、経産婦 4 名の計 8 名終了し、ご家族とともにリラックスして陣痛期を過し、夫や上のお子様を支えられ応援されながら安全なお産をされています。院内助産でご出産された方は、「家族の絆が深まった」、「事前に練習したり説明があり不安が少なかった」などの感想を言われ、満足度が高くなっております。妊娠予定の方がおられましたら是非広島記念病院の助産外来、院内助産をお勧めしてみてください。どうぞ宜しくお願いします。

# 胃癌の内視鏡治療

医師  
顔写真あり

広島記念病院内科 田村忠正

従来、外科的に開腹して治療が必要であった胃癌が内視鏡の機器や技術の進歩により早期に発見された病変は切除可能となっています。残念ながら全ての早期胃癌が適応にはなりません。当院でも内視鏡治療適応のあるものは積極的に治療を行っています。1980年代に本邦で開発された内視鏡的粘膜切除術(Endoscopic membrane resection:EMR)は、癌を内視鏡で治療可能にした画期的な方法でした。しかし、一度に切除できる大きさが限られるなど限界がありました。そのため病変を非癌部の周囲を含めて大きく一括切除することが以前より望ましいといわれてきました。ITナイフ、フックナイフ、フレックスナイフなどの新しい処置具と処置に適した高周波発生装置(いわゆる電気メス)が開発され、粘膜下層剥離術(Endoscopic submucosal dissection:ESD)が行われるようになりました。1996年に国立がんセンターで始まったITナイフによるESDは2000年以降徐々に全国に広まり今や世界にまで広がっています。当院でも2004年10月よりESDを導入しています。



ITナイフ  
(IT-2ナイフもあり)



フックナイフ



フレックスナイフ

ESDの導入に伴い、従来の内視鏡治療の適応病変であった、

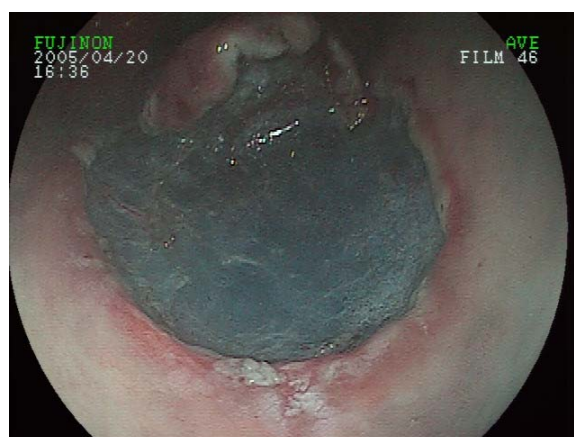
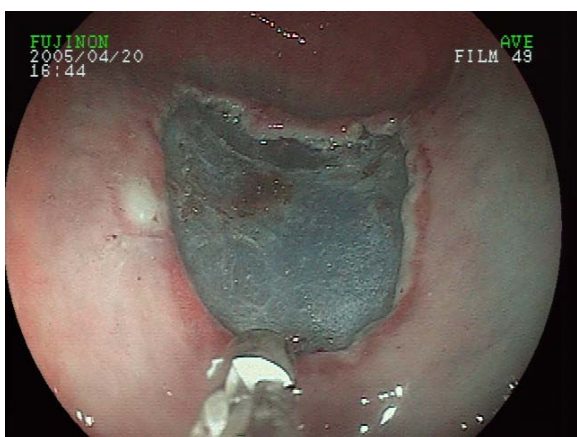
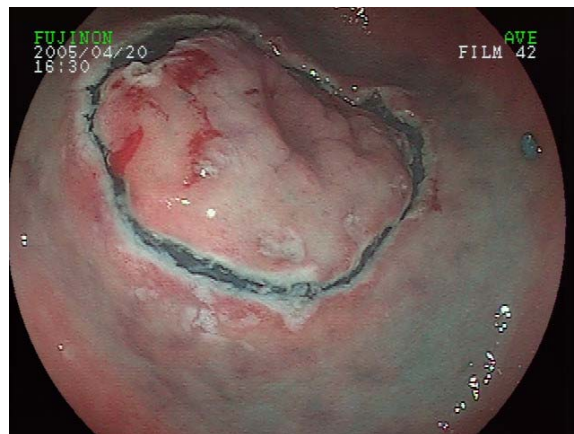
- ① 分化型であること
- ② 2cm以下であること
- ③ 陥凹型病変ではU1(-)であること

を超える適応外病変にも内視鏡的切除が十分なインフォームドコンセントを行った後に治療可能となっています。これらの適応拡大を裏付けるデータとして国立がんセンターの後藤田らによる国立がんセンターと癌研究会付属病院での5,265例の早期胃癌手術症例の検討があります。詳細は割愛しますが、癌専門病院での5000例を超える早期胃癌の検討の結果、リンパ節転移の可能性が極めて少ない条件が抽出されました。当院を含め全国の主な医療機関がこれらの条件を満たす胃癌の内視鏡治療を行っています。

現在当院では原則10日間の入院で治療を行っています。ESDを導入して6年間で約400

病変の胃癌を切除してきました。合併症として術後出血や穿孔などがあります。80 歳以上の高齢者の出血例で 2 例輸血していますが、その他は保存的に治療できており、穿孔例も手術を行うことなく全例軽快退院されています。

内視鏡治療の適応かどうかは専門医による診察及び検査が必要です。是非外来受診していただければと思います。



## 広島記念病院 医療救護チーム被災地活動報告

医療救護チーム 千代延 篤志

H23年3月11日午後02時46分、マグニチュード9.0の地震と津波を伴う「東北大震災」が発生した。それに伴い、国家公務員共済組合連合会病院からの医療救護チームの被災地への派遣が決定した。私達広島記念病院のチームは、平成23年5月10日(火) 11日(水) 12日(木)の3日間、宮城県気仙沼市を中心に医療支援活動を行った。チーム構成は、医師1名(田中内科医)・看護師2名(酒井・篠原看護師)・連絡員1名(千代延)の4名であった。

## 活動内容報告(5月9日～5月13日)

5月9日、新幹線で岩手県一関市へ向かった。新幹線で、約7時間半の道のりであった。私達は一関市内のホテルで3日間を過ごした。一関市内は、さほど震災の影響を受けておらず、食事は一関市内のファミレスなどでとることが出来た。

5月10日(被災地活動1日目)、早朝と深夜に震度2の余震があり、東北の被災地に来ていることを改めて実感した。この日は、面瀬中学校と恵風荘(老人ホーム)で計7名診察。

5月11日(被災地活動2日目)、早朝に余震3回あり。この日は、面瀬中学校・恵風荘・九条小学校の3箇所を回り、計15名を診察。

5月12日(被災地活動3日目)、早朝に余震2回あり。この日は、面瀬中学校で、計8名を診察した。

5月13日、午前中に現地で次のチームへの継ぎを行い、20:30に無事広島へ到着した。



## 総括

今回3日間現地で活動をし、改めて東北大震災の被害の大きさを実感した。空いた時間に被災地沿岸部の視察を行ったが、震災から2ヶ月経ったとは思えないような、凄まじい光景で、全てを一瞬で流してしまった津波の恐ろしさを感じた。

しかし、震災から2ヶ月たち、ライフラインの復興や仮設住宅の建設など、地域が自立に向けて動き出している時期だと感じた。医療の面でも、避難所によっては、医療基盤が整いつつあるため、徐々に派遣チームに対する医療ニーズも少なくなってきており、地域の開業医・嘱託医へ移行する時期になってきている。実際、5月12日で恵風荘も撤退となった。今後、医療チームの派遣が縮小されてくると思うが、地域の保健師・ケアマネジャーとの連携を強化していくことが必要である。まだまだ、復興には時間がかかるが、私達一人ひとりが自分達の生活・仕事の中で出来ることを一生懸命することが被災地の復興に繋がるのではと思う。

最後に3日間という短い時間ではあったが、微力ながら震災の支援に参加できたことをうれしく思う。また、この機会を与えて頂いた、KKR本部・病院に感謝したい。



## 第2回 健康教室「乳がんについて」平成23年2月23日

地域医療連携支援室 柏迫 亜希



今回のテーマは昨年行ったアンケートで一番ご要望が多かった「乳がんについて」です。

3題に分け、中保健センター保健師の中田純子先生に「乳がんの自己検診のしかた」、当院栄養科長・西本善子氏に「乳がん予防の食事について」、当院手術室医長・坂下吉弘医師に「乳がんについて」の講演をしていただきました。自己検診のしかたでは、実際に乳がんモデルに触れることができ、シコリが分かりやすいもの、難しいものがあり、皆様それぞれ

の感想を述べられながら熱心に触れておられました。食事については、肥満、高脂肪食、アルコールにより発症のリスクが高まることに、みなさん納得といった御様子で「分かってはいるけど・・・ついつい」と言うような意見がこぼれていました。乳がんがしやすい場所、危険因子、検査や治療法など詳しく聞くことができ、自己検診の大切さが身に沁みて感じることができる講習会になったのではないのでしょうか。

## 本川子育てオープンスペース「ぽっぽ」の参加して



今年で、6年目を迎えた、本川子育てオープンスペース「ぽっぽ」。

本川児童館で、0～3歳のお子さんとお母さんのいこいの場として毎月第3水曜日の9:30～11時まで行われています。多いときで50組以上の親子が集まって、おしゃべりをして楽しい時間を過ごされています。昨年度から広島記念病院は、地域住民とのふれあいの場を通して、地域のお母さんの子育ての支援活動の一助となればと、この場に参加をさせていただいています。

このたびは子育て真っ只中の看護師、助産師11名で伺いました。

当日は、晴れていたもののとても寒くて、一体どれくらいのお母さん、お子さんの参加があるのだろうかとちょっと不安な気持ちでした。

「今日はいったい何があるの!？」といった雰囲気が多少ある中、最初はぎこちない私たちも、子育ての悩み事をおしゃべりしていくうちに、お母さんとも少しずつ距離を縮めることができました。

今回は「児の便通について」「Hibワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンについて」のお話をしながら、終る頃には、わいわいがやがやの賑やかさにすっかり溶け込んでいました。

ご主人が単身赴任で、地元も広島ではないにも関わらず、たくましく一人で子供の夜泣きに立ち向かっている若いお母さん、仕事をしたいけど食べ物のアレルギーが心配で、保育園入所をためらっているお母さん、一人ではないにしても、子育てに色々な悩みを抱えているお母さんの多さを改めて感じました。

短い時間でしたが、悩めるお母さんの不安の軽減や心の支えになればと願い、今後も継続、参加していきたいと思えます。



## ニューイヤーコンサート

医事科 千代延 篤志



平成 23 年 1 月 15 日(土)広島記念病院 主催 ニューイヤーコンサートが開催されました。今年もヴィオラ奏者の沖田孝司（おきたたかし）さんと沖田千春（おきたちはる）さんご夫妻が演奏してくださいました。お2人は東京音楽大学をご卒業後、ドイツ国立ゲトモルト音楽大学へ留学されました。ドルトムント市立フィルハーモニーオーケストラなど、13年間、ドイツでのご活躍の後に帰国され、近年では、ヴィオラとピアノでの“トーク&コンサート”や弦楽四重奏のコンサートなど、広島県内を中心にご活躍されております。

今年、記念寿、入院患者様、外来患者様、お見舞いの方、職員など様々な方がお越しいただき 100 人近い人がコンサート会場へ集まりました。そして、いよいよ演奏会が始まると、皆様素晴らしい音色に聞き入り、知っている曲が流れると口ずさんだりしながら演奏会を楽しんでおられました。コンサートが始まってからもヴィオラ、ピアノの素晴らしい音色に足を止める方も多くおられました。

また、この演奏会の魅力は演奏だけではありません。“トーク&コンサート”だけあって素晴らしい演奏と演奏の間に楽しいおしゃべりが入ります。普段聞きなれた楽曲も、エピソードが加わることで、一層関心を持って聞くことができました。また馴染みある歌が実は広島から見える景色を詠った曲であったり、今まで自分が 1 番だと思っていた歌詞が実は 2 番の歌詞であったり、音楽に関する新しい発見も沢山ありました。ただ自分の演奏を



聞かせるだけではなく、みんなに問題を出したり、みんなで合唱をしたり、音楽を通じて、会場全体で楽しむことができる雰囲気の中で、あっという間に一時間が過ぎてしまいました。

今回この演奏会に集まった方の顔を見てみると、皆さん良い笑顔になっており、会場も一つになっていたように感じました。私の好きな曲の歌詞に、「LOVE MUSIC と PEACE MUSIC が世界の全てを変えていく！争い消滅！壁、差を超越！世界中の皆が笑い出す！」という歌詞があります。今回の演奏会でも、この歌詞の通り、演奏を通し誰もが笑顔になれる音楽の素晴らしさを感じました。

今回残念ながら見逃してしまった職員の方々もぜひ年末の院内コンサートに足を運んでみてください。素晴らしい演奏に自然と笑顔がこぼれるでしょう。

## H23年度 地域医療従事者研修 年間予定表

日程	研修内容	講師（所属）
4月 (延期)	総合診療科とは	竹内 啓祐（広島大学医学部教授）
5月26日	N S T 研修会	坂下 吉弘（広島記念病院）
6月30日	医療安全研修	砂原 憲子（広島記念病院）
7月	第13回がん疾患セミナー	
8月	緩和ケア研修	
9月	地域医療連携看護セミナー	
10月	感染管理研修	
11月	第14回がん疾患セミナー	
12月	褥瘡対策研修	
1月	CPC検討会	
2月	クリニカルパス研修	
3月	第15回がん疾患セミナー	

## 広島記念病院の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」について

病院のこころ、職員の姿勢を伝えることを意とし、平成10年6月病院建替え完成と同時に、下記の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」を制定いたしました。患者の皆様やその関係者の方々等広くお知らせするため、病院玄関より各階すべてに掲示しております。日々の仕事のなかで実現できるよう努力しております。

### 理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

### 憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

### 患者様の権利の尊重

- ◆ 患者様の人間としての尊厳を尊重し秘密を守ります。
- ◆ インフォームドコンセント（良く納得された上での合意）を基盤とし、信頼関係を確立します。
- ◆ 各科の有機的な連携を図り、高次で専門的な総合医療を行います。
- ◆ 癒しの心を持った、接遇、ケアを行います。
- ◆ 癒しの心を持った、入院環境、アメニティーの整備を心がけます。

### 地域医療連携室

TEL 082 (503) 1003

FAX 082 (503) 1010

### 代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271

FAX 082 (292) 8175

### 庶務課

TEL 082 (503) 1001

### 内科・外科

FAX 082 (503) 0722

### 産婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

### 耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 0731

### 4病棟

FAX 082 (503) 1014

### 5病棟

FAX 082 (503) 1015

### 6病棟

FAX 082 (503) 1016

### 7病棟

FAX 082 (503) 1017

### 8病棟

FAX 082 (503) 1018